

| | | | | | |
|------|-------------|-----------|-------------|--------|------|
| 講義名 | 中国語資格試験準備 A | | | 授業形態 | |
| 担当教員 | 関 梅 | 開講期・曜日・時限 | 前期 火曜日 2 時限 | | |
| | | 単位数 | 2 | 履修開始年次 | 2 年生 |

主題と概要

この科目は、中国語検定試験を受ける学生を対象とするため、基礎の中国語の知識を持つことを求めます。また、この授業では中国語 4 級の検定試験の合格を目標としています。中国語検定試験のランクは準 4 級から始まりますが、この授業ではワンランク上の 4 級レベルの文法を習得させて、検定試験を受けるためのリスニングと筆記のトレーニングを進めていきます。

到達目標

中国語検定試験 4 級に合格する目標を目指します。

- 4 技能に関する到達目標
- 聞く：平易な日常会話の内容を聞いて分かる
 - 話す：自己紹介ができ、短い文の質問と答えができる
 - 読む：300 字以内の平易な内容の中国語を理解することができる
 - 書く：基本文型を応用して、簡単な自己紹介文を書くことができる。

提出課題

毎回の授業では、トレーニングの状況を確認するため、トレーニングのプリントの提出をしてもらい、次回にフィードバックを行います。また、不定時に宿題のプリントも配布します。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

前回のトレーニングの結果を講評し、理解の不十分な文法項目を再度説明します。

評価の基準

原則として授業に 5 回の欠席及び 1/3 以上提出期限内にワークシートを提出しなかった場合は失格とします。
 △ 切期限外に提出する場合は減点評価となります。

履修にあたっての注意・助言他

中国語 4 級検定試験に合格するには日々の努力は欠かせないので、音読の練習や単語の暗記と文法の復習をする必要があります。

教科書

. 教科書を使用しない。

参考図書

. なし。

その他

検定問題の過去問題及びプリント教材

授業計画

1. Live/授業の進行についての説明と実力測定 & 検定試験の説明
2. Live/ワークシート配布：文法項目・筆記、リスニングトレーニング
3. Live/ワークシート配布：文法項目・筆記、リスニングトレーニング
4. Live/ワークシート配布：模擬試験による実力測定・解説
5. Live/ワークシート配布：文法項目・筆記、リスニングトレーニング
6. Live/ワークシート配布：文法項目・筆記、リスニングトレーニング
7. Live/ワークシート配布：模擬試験による実力測定・解説
8. Live/ワークシート配布：本講義の前半復習・テスト
9. Live/ワークシート配布：文法項目・筆記、リスニングトレーニング
10. Live/ワークシート配布：文法項目・筆記、リスニングトレーニング
11. Live/ワークシート配布：模擬試験による実力測定・解説
12. Live/ワークシート配布：文法項目・筆記、リスニングトレーニング
13. Live/ワークシート配布：文法項目・筆記、リスニングトレーニング
14. Live/ワークシート配布：文法項目・筆記、リスニングトレーニング
15. Live/ワークシート配布：模擬試験による実力測定・解説

授業形態（アクティブ・ラーニング）

| | |
|--|---|
| <input type="radio"/> A：PBL（課題解決型学習） | <input type="checkbox"/> I：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態） |
| <input type="checkbox"/> W：ディスカッション、ディベート | <input type="checkbox"/> E：グループワーク |
| <input type="checkbox"/> O：プレゼンテーション | <input type="checkbox"/> C：実習、フィールドワーク |
| <input type="checkbox"/> K：その他（A・L 型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合） | |

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

本講義は中国語検定 4 級を目指すため、授業外での努力は欠かせません。
 毎回の授業の後、復習と予習の課題がありますので、毎日の学習時間は 40 分程度が必要であり、週に 4 時間ほどの自習時間を確保しなければなりません。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

外国語を用いて「人と円滑なコミュニケーションをとることができる」資質・能力を育み、法学部生に求められる「各業界の動向や問題点を理解するための基礎知識」、経済学部生に求められる「人間、社会に関するこれまでの学問的成実の基礎」、人間社会学部生に求められる「日常生活と文化といった現実社会の様々なテーマ」に皆熟し「コミュニケーション能力」の育成を目指します。

双方向授業の実施及び ICT の活用に関する記述

実務経験の有無及び活用

備考

受講者の習得状況に応じて授業の進度を調整します。